

JAMトピックス

J A M
第 19 回定期大会

安河内会長・中井書記長の新体制確立 「田中ひさや」を絶対に国会へ送る

JAMの2018-19年度の運動方針など11本の議案を討議・決定した第19回定期大会が8月31日-9月1日の両日、岐阜市で開かれた。

この大会では、執行委員の約三分の一が改選となり、安河内賢弘^{やすこうちかたひろ}新会長、中井寛哉^{なかいひろや}新書記長をはじめ女性執行委員が三人増えて七人になり、総人数四十七人（財政委員長は副会長兼任）の新体制を確立した。

冒頭のあいさつに立った宮本礼一JAM会長は地球環境問題、中小企業問題、春季生活闘争、働き方改革、第二十五回参議院選挙など6項目について述べ協力を訴えた。



一枚岩となって「田中ひさや」候補の当選に向け邁進すると宮本礼一前会長

新役員を代表してあいさつした安河内新会長は、「JAM初代会長の服部会長は、連合の中に三本目の柱として中小労働運動を立てるとよく言われていた。歴代のJAM会長が運動を一歩一歩進めて、中小労働運動と言えばJAM、というところまできた。しかし、まだ道半ばである。中小労働運動を連合のど真ん中にする。



JAMの中小労働運動を連合のど真ん中にする安河内会長（左） 右・中井書記長

これが私の目標である。そのためには、『田中ひさや』を国会に送るのが最低条件である。しかしながら、この道は決して平坦ではない。皆さんの更なる団結と行動をもって、なんとしても『田中ひさや』を国会に送る」と決意を述べた。

大会は最後に「田中ひさや」勝利への臨戦態勢突入決議と「参加・創造・実践『価値を認めあう社会』を実現しよう」のスローガンのもと、ものづくり産業で働くすべての者が誇りと生き甲斐を感じられる社会の実現を目指すと大会宣言を採択し終了した。

企業・雇用・生活を守るため、国会の議席を必ずや奪還すると決意する「田中ひさや」候補予定者

